
漫才 2

めい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
漫才2

【Nコード】
N7908P

【作者名】
めい

【あらすじ】
ちよこつと笑ってくれたらうれしいです。コンビ名は『ケンタ○キー』。安直ですみません。

「こんにちはどーもー！ ケンタです！」

「ミキです。よろしくお願いします」

「いやあ、こうやってだんだんと大きな舞台に立てるようになってくるのはうれしいことですね。おかげさまで俺、最近引っ越してきましたよ」

「へえそんなんですか。私もですね、最近言葉遊びにはまっているんですよ」

「それ俺の話と全く関係なくね!？」

「……ちっ」

「何でそこで舌打ちするんですかミキちゃん!？」

「小学生のころは色々言葉遊びで遊びました」

「そしてスルーなんですネそうですね」

「今日はそれですね、私が昔にやった言葉遊びをやりたいなと思うんですよ」

「ミキちゃんは昔どんな言葉遊びやったんですか？ 私がよくやったのはなぞかけですね。カレーうどんのスープと掛けて、麻雀と説く、みたいな」

「どちらも飛んだらやばいです」

「ミキちゃん!？　そこは俺が言うところでしょ!？　何でミキちゃんが言っちゃうのさ!？」

「……うざ」

「悪口めっちゃマイク拾ってるから！　それは聞こえないところで言おうよ!」

「それで、私がよくやった言葉遊びは10回言って。みたいなやつなんですよ」

「そしてまたスルーなんですそうですね。もう俺に悪口言ってたことは全部忘れてるんですね。まあ何でもいいですけど……確かに10回言って遊びって色々やりましたよねー。『みりん』って10回言ってって言わせた後に、『鼻が長いのは?』『きりん!』いやいやそこはゾウだろ、みたいな事。はめられたときはなぜかめっちゃ悔しかった思い出ありますよー」

「そこで今日はですね。ケンタにその言葉遊びをひっかけて遊びたいと思うんですね。ということでケンタ、私が『マルマルって10回言って』って言うので、それに返事してください」

「うい、了解です。よーし、引っかからないように頑張るぞー」

「……………ケンタ、シャンデリアって10回言え」

「そこ命令形なんだ!？　かわいらしく『言って?』　じゃないの

!？」

「いいから言え」

「はい……すいませんでした。『シャンデリアシャンデリアシャンデリアシャンデリアシャンデリアシャンデリアシャンデリアシャンデリア』!」

「ガラスの靴を落としたのは？」

「シンデレラ! って違うよね!? そこ普通は『ガラスの靴を拾ったのは?』とか『毒りんごを食べたのは?』だよな?」

「ああ! その発想はありませんでした」

「なんでだよ!? 何でそこそんなびっくりしたような顔してるのミキちゃん!? その発想もとうよ!」

「わかりました、次に期待してください」

「頼みますよー。さあミキちゃん、次はどんなのなのかな?」

「それじゃあケンタ、次は『こううん』って適当に10回言って」

「ん、幸運? ……えっと、『幸運幸運幸運幸運』」

「馬鹿、ケンタは本当に馬鹿ですね。そこは平仮名で言わないと」

「え、平仮名? ちょっとそこ意味が分からないんだけど?」

「ケンタが言っているのは『幸運』、私が言えと言っているのは『こううん』を適当に『こううん』」

「え？ 一緒じゃん？」

「読者から見たら大違い」

「ちょっとそこ何メタっちゃってるの！？ ……ああ、もういいですよ言いますよ！ 『こううんこううんこううんこううんこううんこううん』」

「このど変態」

「なんで!？」

「うんこううんこー」

「ちよっと!？ ご飯食べてる最中の人いたらどうすんの!？」

「先に言ったのはケンタ」

「……………うわ、ひでえ!？ ミキちゃんひどすぎますよ!？」

「『エロ本』って10回言って」

「そしてまた、スルーですかそうですか。というかエロ本なんて言葉公共の電波で流すべきじゃないですよね？」

「今更？」

「確かにうんこうんこ言いましたけどね!? ミキちゃん開き直りひどくない!? ああ、わかりましたよ言いますよ! 『エロ本エロ本エロ本エロ本エロ本エロ本エロ本エロ本エロ本エロ本エロ本エロ本!』」

「何回イッた?」

「10回……ってミキちゃん何でそんな憐れんだ目で見てるの?」

「右手が恋人なんだね……可哀そうに」

「そうですよ悪かったな……ってミキちゃん! 何でまた漢字をカタカナに変えてるんですか!? 意味が変わってる変わってる!」

「メタ発言自重」

「ごめんなさい……ってメタ発言やり始めたのはミキちゃんだからね!」

「『コバンザメ』って10回言って」

「もうスルーばっかですよ、言葉のキャッチボールというよりも、言葉の打ちっぱなしゴルフみたいな気分だよ!」

「あんまりうまくない」

「わかってるようるさいな! そういうところだけキャッチしなくていいから!」

「『コバンザメ』って10回言って」

「ハイハイ分かりましたよ言いますよ！ 『コバンザメコバンザメコバンザメコバンザメコバンザメコバンザメコバンザメコバンザメコバンザメ』！」

「お前の事だ」

「うるさいよ！？ 何でいきなり悪口になってんすか！？」

「腰ぎんちゃくって10回」

「それ同じだよね！？ なんでまた悪口なんすか！？ ひどくないっすか？ 俺のチキンマイハートは今にもブレイクしそうですよ！？」

「金魚のフン」

「もうそれほんとにただの悪口じゃないですか！？ ゲーム成立してないっすよ！？ もっとちゃんとやってくれよミキちゃん！」

「うるさい」

「ふごお！？」

「お前はもう、死んでいる」

「秘孔！？ ミキちゃんどれだけ武術を極めてるんすか！？」

「ほんとうるさい」

「ふごお！？ ……………2度もぶった。親父にもぶたれたことない

のに!」

「パクリかっこ悪い」

「ごめんなさい……って先パクったのミキちゃんじゃないすか!」?

「……まったく、ケンタという人は言い訳ばかりで困ったものです」

「いや、言い訳というか正当な抗議だと思うんだ」

「そんなに脱線してばかりじゃゲームが成り立たないじゃないですか」

「脱線させてるのどう考えても美希ちゃんだよね!」? 俺どう考え
てもちゃんとやってるよね!」?

「『愛してる』って10回言って」

「そしてもう慣れましたけどね、スルーしすぎですよ。……『愛
してる愛してる愛してる愛してる愛してる愛してる愛してる愛して
る愛してる愛してる』」

「私の名前は?」

「ミキちゃん」

「あはん」

「『あはん』じゃないよね!」? 何うれしそうになってんの!」?

「ケンタに告白されたらうれしいに決まってるじゃないですか」

「え……ミキちゃんそれって？」

「……私も好きだから」

「えええええっ！？　こ、こんな舞台上で告白宣言！？」

「ケンタ、結婚しよう？」

「しかも結婚まで！？　いやいやいやいや、まずは健全な交際から始めないと？」

「私と結婚するの、いや？」

「いえ全く！　さ、すぐに婚姻届に書きちゃおう！　印鑑もあるよー……いやあ、彼女いない歴年齢だった自分がいきなり妻を持てるなんてほかあなんて幸せなんだ」

「それじゃあケンタ、私のお願ひ、聞いてくれる？」

「もちろんだよ！」

「『ポク』って10回言って」

「喜んで！　『ポクポクポクポクポクポクポクポクポクポク』」

「チーン」

「殺さないで！？　結婚して30秒で死別！？」

「これでケンタの保険金は私のものー」

「結婚詐欺かよ!? 俺の喜びを返せ!」

「うわ、化けて出てきた?」

「だから俺を殺すな! もういいよ!」

「ありがとうございましたー」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7908p/>

漫才2

2011年1月3日19時05分発行